

第73回関東甲信越大学体育大会実施要項

1. 目的

関東甲信越における大学をもって組織し、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて大学相互の親睦を図る。

2. 主催

関東甲信越大学体育大会協議会

3. 当番大学

信州大学（主管大学）、新潟大学、山梨大学、都留文科大学

4. 後援

長野県教育委員会、松本市教育委員会、長野市教育委員会、塩尻市教育委員会、公益財団法人長野県スポーツ協会

新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、公益財団法人新潟県スポーツ協会

山梨県教育委員会、甲府市教育委員会、都留市教育委員会、公益財団法人山梨県スポーツ協会

5. 協力団体

一般財団法人長野陸上競技協会、松本市ソフトテニス協会、長野県体操協会、一般財団法人長野県剣道連盟、一般社団法人関甲新野球連盟

一般社団法人新潟県サッカー協会、新潟県テニス協会、新潟市テニス協会、

一般財団法人新潟県バスケットボール協会、新潟県柔道連盟、一般財団法人新潟県水泳連盟

山梨県弓道連盟、山梨県バドミントン協会、一般社団法人山梨県空手道連盟、山梨県野球連盟、山梨県バレーボール協会

6. 参加大学（12大学）

茨城大学、筑波大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学、千葉大学、横浜国立大学、横浜市立大学、新潟大学、山梨大学、都留文科大学、信州大学

7. 参加人員

約3,000名

8. 会期

令和6年8月10日（土）～9月4日（水）

ただし、雨天の場合、硬式野球、テニス、ソフトテニスについては、会期内で一日順延し、以後は中止する。

9. 開会式及び閉会式

競技種目ごとに行う。

10. 主将会議

競技種目ごとに行う。

11. 競技実施

各競技種目の競技規定の定めるところによる。

12. 競技種目，参加定員，競技会場（予定）

競技種目		参加定員	競技会場	
A 競技種目 信州 大学	陸上競技	制限は設けない	長野運動公園 陸上競技場	
	ソフトテニス	(男)	12名	松本市浅間温泉庭球公園
		(女)	8名	
	体操	(男)	8名	長野市真島総合スポーツアリーナ ホワイトリング
		(女)	8名	
	剣道	(男)	10名	塩尻市総合体育館 ユメックスアリーナ
		(女)	7名	
	卓球	(男)	6～15名	塩尻市総合体育館 ユメックスアリーナ
(女)		4～10名		
硬式野球		25名	セキスイハイム松本スタジアム 信州大学松本キャンパス野球場	
B 競技種目 新潟 大学	サッカー		30名	新潟聖籠スポーツセンター アルビレージ
	テニス	(男)	制限は設けない	新潟市庭球場
		(女)	制限は設けない	
	バスケットボール	(男)	15名	新潟市東総合スポーツセンター
		(女)	15名	
	ラグビー			開催中止
	柔道	(男)	8名	新潟市亀田総合体育館武道場
(女)		8名		
水泳		制限は設けない	ダイエープロビスフェニックスプール	
C 競技種目 山梨 大学	バドミントン	(男)	5～10名	緑ヶ丘スポーツ公園体育館
		(女)	3～7名	
	空手道	(男)	10名	小瀬スポーツ公園武道館（アリーナ）
		(女)	10名	
弓道	(男)	12名	小瀬スポーツ公園武道館（弓道場）	
	(女)	6名		
D 競技種目 都留文 科大学	準硬式野球		25名	都留市総合運動公園 楽山球場
	バレーボール	(男)	18名	鐘山スポーツセンター 鐘山総合体育館
		(女)	18名	富士北麓公園 体育館

13. 競技実施方法

- (1) 競技は、大学対抗とし、出場は男女とも1チームずつとする。
ただし、種目によっては個人戦を行うことがある。
- (2) 競技は、第73回関東甲信越大学体育大会競技規定により実施する。

14. 参加学生の資格

大会参加の資格は、次の各項による。

- (1) 加盟大学に在学する学部生のうち、在学期間が在学する学部の修業年限の範囲内である者
- (2) 日本スポーツ協会スポーツ憲章による。

15. 選手登録

- (1) 参加種目の申し込みは既に受け付けている。以後の変更は認めない。
- (2) 選手登録は、所定の用紙により6月17日(月)までに提出すること。
ただし、水泳競技は6月28日(金)、陸上競技は7月16日(火)までとする。

(注) 選手変更は、団体競技でやむを得ない場合に限り認める。該当者がいる場合、主将会議前日までに所定の様式を提出すること。

16. 組合せ

- (1) 組合せ抽選については主管大学に一任する。
ただし、剣道、ソフトテニス及び柔道の個人戦は、主将会議において決定する。
- (2) 陸上競技、水泳、弓道、ソフトテニスの組み合わせは、当番大学に一任する。

17. 表彰

- (1) 表彰は、団体及び個人とも3位までとする。
ただし、体操競技は個人総合6位まで表彰する。
- (2) 過去3年間連続優勝したチームに対しては、表彰式で表彰状と優勝杯を授与する。

陸 上 競 技

1. 会 場 長野運動公園 陸上競技場
2. 期 日 令和6年8月21日(水)～22日(木)
3. 競技規則 2024年日本陸上競技連盟規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。
4. 審判員 長野陸上競技協会公認審判員に委嘱する。
5. 競技方法

(1) 競技種目について

男子(19種目) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 110mH, 400mH, 3000mSC, 4×100mR, 4×400mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 三段跳, 砲丸投, 円盤投, ハンマー投, やり投

女子(17種目) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 100mH, 400mH, 4×100mR, 4×400mR, 走高跳, 走幅跳, 三段跳, 砲丸投, 円盤投, ハンマー投, やり投

(2) 選手登録・チーム編成等について

参加定員 : 制限は設けない

(3) 競技日程 : 別紙のとおり

(4) 競技の抽選、番組編成について

- ① トラックの走路順は、プログラム記載順とする。準決勝以降の組合せは、主催者が規則に則り編成する。
- ② フィールドの競技順は、プログラム記載順とする。

(5) 表彰及び対校得点について

- ① 団体優勝は、男女別とし、最高得点の大学とする。ただし、同得点の場合は、上位入賞種目の多いものをもって決める。以下これに準ずる。
- ② 各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点とする。決勝人数7名の場合1位7点、以下6、5、4、3、2、1点とし、同様に6名の場合1位6点、以下5、4、3、2、1点とする。
- ③ 個人表彰は、種目別3位までの入賞者に対し、賞状を授与する。団体表彰は、男女別とし、総合、トラック種目、フィールド種目の3位までに賞状を授与する。

(6) 出場制限について

1種目につき1大学3名以内、1人3種目以内(リレーを除く)とする。

(7) 申込みについて

メールで配付されたエントリーシートで申請の上、申込み後はリレー以外のメンバー変更を認めない。

(8) 招集について

- ① 招集所は、競技種目100mスタート側器具庫内に設置する。

② 招集時間は下記のとおりとする。

トラック競技 競技開始 30 分前から 20 分前まで

フィールド競技 競技開始 50 分前から 40 分前まで（棒高跳は 90 分前から 60 分前まで）

③ 競技者は競技開始 10 分前に、各競技場所でユニフォームを着用した状態で最終確認を受けること。

④ 招集完了時刻に遅れた者は、欠場とみなす。

(9) リレーオーダー用紙の提出について

リレー競技に出場するチームは、オーダーの変更の有無にかかわらず、主将会議で配付するオーダー用紙に記入のうえ、各ラウンドの招集完了 1 時間前までに招集所へ提出すること。

(10) アスリートビブスについて

アスリートビブスは、各大学で各選手 2 枚作成し、胸と背にはっきり見えるようつける。大きさは、縦 16cm×横 24cm 白布に、太さ 2cm 数字（JIS 規格）とし、男子は黒数字、女子は赤数字とする。ただし、跳躍競技者は、背又は胸につけるだけでもよい。ナンバーは選手登録完了後、当番大学によって大学ごとに割振られたものを使用する。1500m までのトラック種目出場者は招集の際に配付する腰ナンバー標識を右腰やや後方へ、3000m を超えるトラック種目出場者はオーダーナンバービブスを胸と背に付けること。これらを受け取っただけでは招集完了とはならないので注意すること。

(11) 用器具について

競技に使用する用器具は、競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用ポール・砲丸・円盤・やり・ハンマーについては、検定を受けて承認されたものに限り、各自用意したものを使用することができる。検定は、各種目競技開始 1 時間前までに行う。検定会場は大会前日の主将会議にて連絡する。

(12) 使用競技靴について

スパイクシューズの針の長さは、トラック、フィールドともに 9mm 以下とする。ただし、やり投・走高跳は 12mm 以下とする。

(13) 跳躍競技について

跳躍競技のバーの上げ方は下記のとおりとする。

ただし、天候により変更することがある。

走高跳：男子 1m80 以後 2m00 まで 5cm, 2m00 以後 3cm 上げ

女子 1m30 以後 1m65 まで 5cm, 1m65 以後 3cm 上げ

棒高跳：男子 2m80 以後 4m00 まで 20cm, 4m00 以後 4m50 まで 10cm,

4m50 以後 5cm 上げ

なお、同成績の場合における第 1 位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳 2cm, 棒高跳 5cm とする。また、競技者が 1 名になった以降のバーの高さは、競技者の希望により決めることができる。

(14) 練習について

- ① 練習は補助競技場で行うこと。
- ② 競技場内の投てき練習は、競技役員の指示に従い、危険防止に十分努めること。また、砲丸投以外の投擲種目は投擲練習場(砲丸投のみ補助競技場)で安全確認者を付けた上で実施すること。